（左から）伊藤、高田、池田、朝倉、日下

Interview　人事課長へのインタビュー

入省１～２年目の若手職員が就職活動をしていた頃を振り返り、当時気になっていたことを中心に人事課長にインタビューを行いました。文部科学省の魅力などについて、人事課長がお答えいたします。

池田課長はこれまで県や独立行政法人への出向経験がおありですが、外から改めて見て感じた文部科学省の魅力は、どういうところだと思われますか。

文部科学省は、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化と非常に幅広い分野を担当しており、いずれの分野も未来を創り、人を育てていくという点で共通しています。国が進めなければならない仕事はどれも大事ですが、その中でも文部科学省は、未来に向けた仕事や人を育てる仕事を行うという意味において、夢のあるところが魅力だと思います。

文部科学省が求めている人材は、どのような人ですか。

多様性が組織の強みに直結するので、多彩な人材がいた方が良いと思っています。こういう人でなければ採らないということはありません。

ただし、ここだけは押さえておいてほしいという点はあります。一つは、前向きで柔軟な発想で物事を考えることができる人。昨年、カナダのトルドー首相は「今ほど変化のペースが速い時代は過去になかった。だが今後、今ほど変化が遅い時代も二度とこないだろう」と発言しました。また、もっと前にデューク大学の研究者が「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」と予測して話題になりました。この二つの言葉に象徴されるように、それだけ変化が加速度的に速くなっているので、前向きかつ柔軟に物事を考え、変化に対応できる人に来ていただきたいと考えています。これからの時代に仕事をしていくには、「法令でこうなっているからできない」という発想より、「ここをこう変えたらできるようになる」という発想が必要なのです。もう一つは、国家公務員は全体の奉仕者であることを考えると、真摯さ、誠実さが大切であると考えています。あえて言えば、欧米の企業経営者に求められる資質としてドラッカーなどが挙げている「インテグリティ」という言葉がこれに近いかと思います。総合職として採用される人の中には幹部職員になる人も多いですし、ここ2年間、不祥事が続いた文部科学省を立て直していくためにも、特にそのような資質を持ち、真摯な姿勢で物事に取り組める人に是非来ていただきたいと思います。

今、国家公務員を目指している人たちは様々な夢を持って頑張っていることと思いますが、池田課長御自身のこれからの目標はありますか？

これまで経験した仕事の中には、自分なりの理想ややりがいを持って取り組んできたものが多いのですが、残念ながら途中で異動になって離れてしまったものもあるので、チャンスがあればまた携わりたいですね。そのうちの一つは産学官連携です。大学の研究成果を知的財産にどう結び付けていくか、そして社会にどう還元していくか、そのための支援の在り方を考える仕事です。もう一つは、学校にスクールカウンセラーなど様々なスタッフを配置し、教師と彼らがチームとして学校運営に取り組んでいけるようにする改革で、県教育委員会への出向時の経験も活かして、また関わりたいなと思っています。

プライベートでは、放送大学大学院で臨床心理学の修士を取りたいと思っています。これまで科目等履修生として少しずつ単位を取りためているのですが、正規の学生になって実習をしないと修了できないので、これに挑戦したいですね。傾聴などのカウンセリング技法は、管理職として部下の相談に乗るときに役に立つこともあるんです。

学生時代の御経験で、入省してから役に立ったことはありますか。

役所の仕事には、論理的に考える力が必要です。私は大学で政治哲学を専攻したことで、物事の本質を論理的に考える癖が多少養われたと感じており、これが今の仕事に役に立っているのかなと思います。理系の人もエビデンスに基づいて論理的に考えるという意味では、学生時代にトレーニングができているはずで、今、省として力を入れているＥＢＰＭ（Evidence Based Policy Making）や法令業務などとも親和性があります。そうした力が身についていれば、どの学部の出身なのかは関係ありません。また、文部科学省で特に大切なのが、人の気持ちを想像する力。弱い立場にある人の気持ちを察したり、話合いの相手の気持ちを推し測ったりする力で、思いやりより広い意味と考えてください。この“想像力”と論理的思考力のバランスをとることは難しく、理屈が勝ちすぎて、国民の方々から理解を得られないということになってもいけないと思います。

このパンフレットを読んでいる人の中には、公務員と民間企業のどちらを目指すか迷っている人もいると思います。最後に、就職活動をする方々へアドバイスをお願いできますでしょうか。

まず、志望先を選択する上でのアドバイスとして、社会をよりよくしたい、より広くみんなの役に立ちたいという気持ちのある人には、是非国家公務員を目指してほしい。その中でも人を育てる、それを通じて未来を創るといったことに関心のある人は、文部科学省の門を叩いてみてください。そして、できるだけ学生時代に幅広い経験をしてほしい。例えば、語学が苦手でも、それに代わる自分の長所や誇れる点があれば良いと思います。学生時代にしかできない様々な経験をしながら、自分の強みを、これだけは人に負けないということを身につけていただきたい。それはスポーツでも芸術でも良いし、そういうことでは測れないものであっても良いです。あとは、世の中のことに広く関心を持ってほしい。文部科学省を目指しているとしても、経済や国際情勢などにも目を向けて、できるだけ広い視野を持つように心がけてほしいと思います。意欲のある皆さんと官庁訪問でお目にかかれるのを楽しみにしています。

※若手職員のインタビューはこれだけにとどまらず、池田課長の県へ出向した際のエピソードをお聞かせいただいたり、大いに盛り上がりました。文部科学省HPに掲載していますので、是非御覧ください！

大臣官房人事課長
池田 貴城
Ikeda Takakuni
平成元年入省（行政）

平成 元年	４月	文部省高等教育局私学部私学行政課
平成 ２年	７月	文化庁文化財保護部記念物課
平成 ３年	７月	文部省体育局競技スポーツ課
平成 ４年	８月	同　体育局体育課企画係長
平成 ６年	９月	同　大臣官房総務課法令審議室審議第三係長
平成 ６年	12月	同　大臣官房総務課法令審議室審議第二係長
平成 ７年	10月	同　大臣官房総務課法令審議室審議第一係長
平成 ８年	４月	島根県教育委員会高校教育課長
平成 10年	９月	文部省生涯学習局学習情報課課長補佐
平成 11年	10月	同　大臣官房総務課課長補佐
平成 13年	５月	同　高等教育局高等教育企画課課長補佐
平成 14年	10月	同　大臣官房総務課課長補佐
平成 15年	９月	同　大臣官房付（命）文部科学大臣秘書官事務取扱
平成 16年	10月	同　高等教育局国立大学法人支援課企画官
平成 18年	５月	同　大臣官房人事課人事企画官（併）人事課副長
平成 20年	９月	同　大臣官房付（長期出張：米国科学財団）
平成 21年	12月	同　大臣官房教育改革調整官
平成 22年	７月	同　研究振興局研究環境・産業連携課長
平成 23年	４月	同　科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長
平成 24年	１月	同　高等教育局大学振興課長
平成 25年	７月	同　初等中等教育局財務課長
平成 27年	７月	同　大臣官房付
		（併）内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）
		（命）内閣官房新国立競技場の整備計画再検討推進室参事官
平成 27年	10月	独立行政法人日本スポーツ振興センター理事
平成 29年	２月	文部科学省大臣官房参事官
平成 30年	４月	現職

Career Story

キャリアパス及び出向・研修等について

科学技術・学術政策局政策課
国際戦略室
小田切 美穂
平成29年入省（農業科学・水産）

P.29

科学技術・学術政策局政策課
国際戦略室国際総括係長
山本 智久
平成27年入省（工学）

P.29

総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
専門官
髙見 暁子
平成14年入省（経済）

P.33

総合教育政策局政策課長
寺門 成真
平成3年入省（法律）

P.35

大臣官房審議官
（研究開発局担当）
岡村 直子
平成2年入省（化学）

P.36

入省 — **係　員**

4年目 — **係　長　級**
（係長、専門職）
幅広く実務を経験

8年目 — **課長補佐級**
（補佐、専門官）
担当業務の企画・立案・調整

管理職員
（室長・課長）
課の政策の企画・立案・調整

幹部職員

A 留学・海外研修

B 他府省等への出向

C 地方公共団体・国立大学法人等への出向

D 海外勤務（在外公館、OECD・UNESCO等）

P.38

大臣官房人事課専門官
（人事院留学：カリフォルニア大学ロサンゼルス校）
近江 麻美
平成22年入省（理工Ⅰ）

P.40

内閣府宇宙戦略推進事務局参事官補佐
立松 慎也
平成19年入省（理工Ⅰ）

P.40

初等中等教育局初等中等教育企画課専門職
（岩手県盛岡市立下橋中学校派遣）
天野 力允
平成26年入省（行政）

P.39

京都府教育委員会学校教育課長
栗山 和大
平成19年入省（法律）

P.37

外務省在ジュネーブ日本政府代表部一等書記官
千々岩 良英
平成14年入省（法律）

A 留学・海外研修

語学力の向上、国際的な知己の獲得、専門性の取得を目的としたグローバル人材育成のための研修である人事院による長期在外研究員制度をはじめとした各種留学制度のほか、文部科学省によるものとして宇宙関係、原子力関係の留学制度があります。

B 他府省等への出向

複雑・高度化する行政課題に対応するため、ものの見方や考え方の幅を広げる必要があります。また、異なる分野の行政に携わる人達との交流を深め、緊密な連携の強化を図る観点からも、重要な意味を持つため、積極的に行っています。

C 地方公共団体・国立大学法人等への出向

地方公共団体や国立大学法人等の要請に応じ、都道府県や市町村の教育委員会、知事部局、各国立大学法人の事務局や独立行政法人等への出向を経験する機会もあります。
学校現場の教職員や文化関係者、国立大学法人の事務職員や研究者等と一緒に教育、科学技術・学術、スポーツ、文化等を考えていく大変貴重な経験となっています。

D 在外公館等での海外勤務

ボーダーレスの時代において、これからの行政には国際的な視点が欠かすことができなくなっています。外務省に出向して現地の大使館で外交官として勤務したり、国際機関に派遣されて国際公務員として活躍するという機会も設けられています。

※上記のキャリアパス等は基本的な例であり、本人の適性・希望等により変わります。

Career Story 01

係長・係員インタビュー

お互いに刺激しあって、切磋琢磨（せっさたくま）し、成長したい気持ちを試せる職場

科学技術・学術政策局政策課国際戦略室国際総括係長
山本 智久　Yamamoto Tomohisa
平成 27 年入省（工学）
平成 27 年4月　文部科学省科学技術・学術政策局政策課
平成 28 年4月　同　研究開発局環境エネルギー課
平成 30 年4月　現職

文部科学省科学技術・学術政策局政策課国際戦略室
小田切 美穂　Odagiri Miho
平成 29 年入省（農業科学・水産）
平成 29 年4月　現職

Q. 現在担当している業務の概要

山本係長

科学技術分野の国際案件のとりまとめが国際戦略室の業務内容です。科学技術の国際案件がどういう方向で進んでいくか、また、各国の個々の案件を担当している方々が相手国との関係性を作ってくれている中で、全体をどういう方向性にもっていけば、我が国の科学技術外交・国際交流がうまく進むか、室の司令塔として省内各課室、関係府省、時には協力相手国との調整を行います。日本の研究を世界にどう発信していけるか、また世界とどう協力していけるか、こういったことを日々考えながら業務を行っています。

私も同じく、科学技術分野の国際案件のとりまとめを担当しています。室のとりまとめ役として連絡調整業務もしていますし、国際会議等のイベントも多いので、会場設営の準備や、挨拶文の資料作成等といった業務も行っています。先輩や上司たちと日々、相談しながら仕事をしています。

小田切係員

Q. 係員から見た係長の尊敬する点

尊敬する点を挙げだすとキリがないですが、部下として一番良いなと思うのは常に私の成長を意識してくれているという点です。チームとして仕事をしているということを、とても意識できます。自分を戦力として信頼してくれているというのを日々、感じながら仕事をできるので、モチベーションも上がりますし、相談事も行いやすいです。とても頼もしく感じています。

小田切係員

Q. 係長から見た係員の良いところ、長所

山本係長

小田切さんの一番良いところは粘り強さですね。小田切さんにやってもらってる仕事の量は多く、内容は重いものも多いと思うのですが、それにやりがいを感じて、粘り強くやってくれているところがとても評価できる点だと思います。しっかり責任を持って仕事に取り組んでくれる一方で、相談はちゃんとしてくれますね。自分の判断の範疇（はんちゅう）を超えたり、迷うことがあったりするとすぐに報告してくれる。この切替えの良さは彼女の長所の一つだと思います。

Q. 印象に残っている業務

山本係長

日本で行われた大きな国際会議です。そこに文部科学大臣に出席していただいて、海外の方々との意見交換や、科学技術協力に関する対話を行っていただいたのですが、この準備を我々が担当していました。かなり規模の大きい会議であったため、動線確保といった所から、どういう案件をどのタイミングでどの国と話し合うかといった所まで、幅広く全体の指揮を行うのが我々の業務でした。室全体・局全体で協力して取り組んだ案件なので非常に印象に残っています。

小田切さんには、このイベントの際、大臣の御講演内容の校正業務を担当してもらったのですが、これが非常に好評を得ています。彼女にとって非常にいい経験になったのではないかと思います。

小田切係員

係長と同じく、日本で開催された大きな国際会議に関わる一連の業務です。

会議の準備段階から当日の出張に至るまで、日々室内で意見を交わしあいながら、作業を進めていきました。当日に向

けて全員が一丸となって取り組み、無事、乗り越えた時にはとても達成感がありました。

我々の室は個々の力も大きいですが、お互いの良さを更に伸ばしあえるチームワークの良さを感じられたという点でとても印象に残っています。

Q. 係の雰囲気はどうですか

小田切係員

私たちの係では、係長を筆頭にコミュニケーションが日々、頻繁に行われています。だれ一人孤立することなく、非常に過ごしやすい雰囲気だと思います。室としては、研究開発法人から来ていたり、大学から来ていたり、様々なバックグラウンドをもった人がいらっしゃいます。今まで科学技術系の業務を中心にやってきた人もいれば、教育系を中心にやってきた人もいます。お互いが刺激しあって切磋琢磨していける、熱い、成長に貪欲な室だと思います。

Q. 入省にあたってのアドバイス

山本係長

自分で考えることができること、少し詳しく言うのであれば、自分で考えて自分で前に進む、そのために何が必要か自分で考えられることが求められます。大学在学中から、物事の問題点、その解決法などを考えるクセをつけておくのはいいことではないでしょうか。

小田切係員

疑問を持つこと、知識をつけるだけではなく、いろいろな経験を積んで、自分で考える力を身に着けることが必要だと思います。勉強から遊びまで、例えば山登りも、企業のインターンも、いろいろなことを楽しめる性格はこの仕事に向いていると思います。その中で、様々なことに疑問を持つことが大切です。

Q. 文部科学省を志望する方へ

山本係長

この職業は非常に若いころから、ある程度の裁量を与えられる仕事だと思います。もちろん、最終的な決定は上司が行うわけですが、個々の案件に関して若手が一番詳しいということも往々にしてあります。それをやりがいに感じられる人は、この職業に向いていると思います。そういう気持ちを持った方は是非、文部科学省に来ていただきたいです。

小田切係員

私も似たような話にはなりますが、文部科学省は自分が成長したい気持ち、自分のポテンシャルを試せる職場だと思います。自分で自分を成長させるかを自分で決められる。そういう職場です。そういう気持ちを持った受験生には文部科学省が向いていると思います。

ある一日の出来事

出勤

山本係長

昨晩のうちに確認しておいた今日の予定や懸案を思い出しながら、電車に揺られ、出勤。
今日は午前中に海外要人による大臣への表敬訪問だ!

小田切係員

コーヒーとお気に入りの音楽で目を覚まして、出勤。朝一から大事な仕事が盛りだくさんなので、一日の流れを頭の中で整理しながら頭をスイッチオン。

午前

山本係長

大臣室での表敬訪問に向けて、準備と最終確認。小田切さんをはじめとする室内のメンバー間での緊密な連携により、本番も無事終了。

小田切係員

大臣室に向かう山本係長を見届け、私は自席から遠隔で連絡対応。スムーズな進行を適宜サポートしつつ、メール業務や資料作成を進めます。

昼休み

山本係長

近隣の飲食店に昼食を買いに出かけ、ガパオライス入手。自席にて、新聞記事を読みながらおいしく頂きました。国際担当部局に来たこともあり、エスニック料理を食べるようになりました。

小田切係員

室の方々とお弁当を買いに近隣へ。おいしいお弁当と楽しい雑談で、午後に向けてエネルギーチャージ満タンです。

午後

山本係長

予算要求関係資料の作成方針について、室内担当係とともに関係法人の方と打合わせ。来年度予算をしっかり確保するためにも、入念な擦り合わせを実施。

小田切係員

山本係長が大事な打合わせをしている間に急ぎの問合わせが!事前に一緒に資料を確認した内容だったので一安心。お互いが不在の際にも急な案件に対応できるように密な情報共有は大事です。

帰宅

山本係長

今日一日に起こったことを振り返り、残務状況などから明日以降の対応について整理する。今週はまだ懸案がいくつか残っているけど、明日も頑張ろう!と思いながら、帰宅。でも帰りに一杯飲んで帰ろうかな?

小田切係員

次の日の予定を確認し、必要な準備を一通り終えて帰路につく。
今日も一日頑張った!とおいしいご飯で自分を労います。

Career Story 02

課長補佐級インタビュー

多様な人が個性を生かし、豊かに生きられる社会を創りたい

総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課専門官
（命）総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室長心得
（命）総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課男女共同参画学習室長心得

髙見 暁子　Takami Akiko

平成 14 年入省（経済）

平成 14 年 4 月　文部科学省科学技術・学術政策局政策課
平成 15 年 4 月　同　初等中等教育局国際教育課
平成 17 年 4 月　同　初等中等教育局国際教育課企画調査係長
平成 17 年 6 月　同　高等教育局学生支援課法規係長
平成 19 年 2 月　同　高等教育局学生支援課専門職
（育児休業：平成 19 年 5 月～平成 20 年 3 月）
平成 20 年 4 月　同　生涯学習政策局男女共同参画学習課専門職
（命）生涯学習政策局男女共同参画学習課女性政策調整官心得
平成 20 年 10 月　同　生涯学習政策局政策課専門職
（命）生涯学習政策局政策課専門官心得
平成 21 年 7 月　同　生涯学習政策局政策課専門官
（育児休業：平成 21 年 11 月～平成 22 年 9 月）
平成 22 年 10 月　同　初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室室長補佐
平成 25 年 4 月　横浜市教育委員会教育政策推進課担当課長
平成 27 年 4 月　横浜市教育委員会教育政策推進課長
平成 29 年 4 月　文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課課長補佐
（命）生涯学習政策局生涯学習推進課障害者学習支援推進室室長補佐
平成 30 年 7 月　（命）生涯学習政策局生涯学習推進課障害者学習支援推進室室長心得
平成 30 年 10 月　現職

現在担当している業務の概要

障害のある方の生涯学習に関する業務と、男女共同参画・女性活躍推進に向けた学習に関する業務を担当しています。

障害のある方の生涯学習は、文部科学省が平成 29 年度から取り組み始めた分野ですが、その立ち上げの時から携わっています。障害のある方が、学校卒業後どのような生活や就労をし、学習に相当することはどこで行っているのか等の実態把握や、国内の障害者政策の変遷と福祉や労働等も含めた関連分野の施策の状況、諸外国の状況などを踏まえつつ、障害のある御本人や支援者との意見交換も行いながら、新規の予算要求をし、推進方策の検討を行っています。現場の皆さんとやりとりしながら政策を作る仕事をさせていただき、大変やりがいを感じています。

男女共同参画・女性活躍推進に関して、2018 年に世界経済フォーラムが公表した「ジェンダーギャップ指数」について日本の順位は 149 か国中 110 位と大変低い状況にあります。特に、経済分野における女性管理職の割合や政治分野における女性の割合が依然として低い実態を踏まえ、教育や学習の分野においてどのように貢献できるか、人生 100 年時代における学び直しの文脈でも、女性の活躍推進に向けた対応を強化できるよう、検討を進めています。

これまでのキャリアを振り返って

多くのやりがいのある仕事に恵まれてきましたが、直近の4年間出向した横浜市で意義深い経験をしました。横浜市は人口370万人超の政令指定都市であり、市内に外国籍の方が多く住む地域や、厳しい家庭環境の子供が多い地域、私立中学校進学者が半数を超える地域など、多様な地域があります。こうした横浜市全体の教育ビジョンや教育振興基本計画について、福祉部局や市全体の政策担当部局等の知恵も頂きながら策定作業を進める過程で、様々な意見の衝突や見解の相違を乗り越えました。その時に感じたのが「多様性は強み」になるということです。全く主張の異なる相手にも私とは異なる論理があり、相手の主張を踏まえることで一層内容が深まり、複層的な検討がなされた厚みのある施策ができるのです。

そして現在は、まさに多様な方々がいかに個性や能力を発揮し活躍できる社会としていくか検討できる部署にいます。人口減少や長寿化が一層進展する日本において、性別や障害の有無にかかわらず、全員が活躍できる社会を作っていくため、教育や学習を通じて一層貢献していきたいと考えています。

文部科学省を志望する方へ

「世の中を変えよう」これは、私の所属する課の運営方針の一つです。在任中に世の中を一つでも良い方向に変えたと言えるように、日々の業務に取り組んでいます。

国の行政はより良い社会づくりに関わる仕事です。中でも文部科学行政は、人と社会の未来を創る仕事です。その上、教育・科学技術・スポーツ・文化芸術、それぞれに現場があり、現場で何が課題になっており、関係者が何を望んでいるのかを把握しながら、課題解決・より良い仕組みづくりに向けた取組を実施することができるのは、文部科学省の大いなる魅力です。

いろいろな人がいることで、様々なアイデアが湧き有意義な議論ができる。人と社会の未来を「こうしたい！」と夢を語れる皆さん、是非文部科学省で一緒に働きましょう！一人一人の個性を生かして、力を合わせて仕事をすることで、必ずや、今よりもっと面白い未来が創れると思います。「思い」のある皆さん、お待ちしています！

Career Story 04

歴史を鑑に　人とともに「善く生きる」ための「学び」を支える

管理職員インタビュー

総合教育政策局政策課長

寺門 成真　Terakado Shigechika

平成３年入省（法律）

平成　３年　４月　文部省大臣官房人事課審査班
平成　３年　８月　文化庁文化部著作権課
平成　５年　４月　文部省初等中等教育局中学校課
平成　６年　４月　同　初等中等教育局中学校課生徒指導第一係長
（併）初等中等教育局中学校課生徒指導第二係長
平成　７年　４月　同　生涯学習局生涯学習振興課生涯学習係長
平成　７年 12 月　同　生涯学習局生涯学習振興課調整係長
平成　９年　７月　同　高等教育局医学教育課専門職員
平成 10 年　４月　同　高等教育局医学教育課課長補佐
平成 10 年　４月　石川県企画開発部企画課高等教育振興室長
平成 11 年　４月　同　企画開発部情報政策課長
平成 12 年　４月　同　企画開発部企画課長
平成 13 年　４月　文部科学省生涯学習政策局政策課専門官
平成 13 年　５月　同　大臣官房総務課課長補佐
平成 14 年 10 月　同　高等教育局高等教育企画課課長補佐
平成 15 年 10 月　外務省在ジュネーブ国際機関日本政府代表部一等書記官
平成 18 年　９月　文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室長
平成 20 年　９月　同　生涯学習政策局政策課教育改革推進室長
平成 21 年 10 月　同　高等教育局国立大学法人支援課企画官
平成 22 年　７月　（併）高等教育局国立大学法人支援課国立大学法人評価委員会室長
平成 23 年　９月　同　大臣官房企画官
平成 24 年　７月　復興庁統括官付参事官
平成 26 年　８月　文部科学省高等教育局医学教育課長
平成 29 年　１月　同　研究振興局学術機関課長
平成 29 年　７月　同　大臣官房付
（併）内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）
（命）内閣官房人生 100 年時代構想推進室参事官
平成 30 年　１月　同　高等教育局主任大学改革官
平成 30 年　４月　同　生涯学習政策局政策課長
平成 30 年 10 月　現職

現在担当している業務の概要

社会構造の急激な進展に伴い、教育も大きく変貌することは必至です。変化への対応に止まらず、新しい価値を創出できる人材の育成には、施策の充実を図ることはもちろん大切ですが、同時に、行政組織にも不断の改革が求められます。

平成 30 年 10 月、文部科学省は組織再編を行い、新たに教育分野の筆頭局として「総合教育政策局」を設置しました。同局のミッションは、（1）教育基本法の生涯学習の理念の実現に向け、①教育振興基本計画の策定などの総合的な教育政策の企画立案、②総合的かつ客観的根拠に基づく政策（Evidence-Based Policy Making：EBPM）を推進するための基盤整備、（2）人生 100 年時代を豊かに生きる「生涯にわたる学び」、活力ある社会を持続可能とする「地域における学び」、互いに認め、支え合い、誰もが社会に参画する「ともに生きる学び」の総合的推進です。総合教育政策局政策課は、筆頭局の筆頭課として、教育改革のエンジンたる役割が求められており、日々重責を感じつつ業務に当たっています。

これまでのキャリアを振り返って

20代前半の印象に残るエピソードを1つ紹介します。入省3～4年目の生徒指導係長時代。連日報道されていた深刻化する不登校、いじめ問題について、従来の学校中心の対応のみでは限界だと痛感。多方面からの御意見を伺う中で、学校外との連携をよりシステム化できないかと思案。そこで、子供達や保護者の方々の悩みの解消、解決に尽力される教師の方々への支援を目的に、スクール・カウンセラーに全国のモデル地域で活躍いただいてはと思い至り、予算要求を経て、平成7年度から国の事業として実現できました。先日、平成時代の生徒指導施策の取材の折、この事業は、当省が推進する「チームとしての学校」の嚆矢との御指摘を頂き、導入慎重論もあった往時を思うと隔世の感を覚えました。

実に様々な仕事を、多くのお力のお陰で経験できたことに対し、感謝の念に尽きません。入省直後から、大きな影響を社会的に長きにわたり与える政策の企画立案や実施に携わることができる文部科学省の伝統は、脈々と受け継がれています。

文部科学省を志望する方へ

数年来、当省は非常に困難な事態に直面し、一員としてひたすら恐懼に堪えません。しかし、政策課題は山積し、停滞は許されません。失われた信頼を一刻も早く回復し、前進が必要です。職員一人一人の果たすべき役割はますます重大です。各員が、厳しいながら、その分「やりがい」「生きがい」を実感して奮闘できる場所、それが今の文部科学省です。

私たちは現在、省を挙げ再生に向けた様々な取組を進めていますが、絶対不可欠な改革の原動力は若い力です。皆さんと同世代の職員が、職務に全力で向き合っています。文字通り「畏るべき後生」の真摯で誠実な姿勢に接すると、我が身を猛省することは少なくありません。歴史の転換期、危機を超克し、新時代を切り拓いてきた先達の道程は、高い志を胸に、国を憂い、社稷を思う若人の勇気ある一歩から始まりました。使命感に燃え、熱意あふれる皆さんと同志になることは、大きな喜びであり、希望です。入省お待ちしています！

Career Story 05

劇的に変化している社会を築き発展させる仕事を共に！

幹部職員インタビュー

大臣官房審議官（研究開発局担当）

岡村 直子　Okamura Naoko

平成２年入省（化学）

平成　２年　４月　科学技術庁科学技術政策局政策課
平成　４年　３月　同　科学技術政策局計画課国際政策室
平成　４年　７月　同　科学技術振興局国際課企画係長
平成　６年　２月　同　原子力局原子力開発機関監理官付原研第１係長
平成　８年　５月　同　原子力局研究技術課原研係長
平成　８年　７月　同　原子力局研究技術課専門職（原子力留学：コーネル大学）
平成 10 年　７月　文化庁文化部地域文化振興課課長補佐
平成 11 年　４月　科学技術庁長官官房秘書課課長補佐
平成 12 年　４月　同　科学技術政策局政策課企画室長補佐（企画担当）
平成 13 年　１月　文部科学省研究振興局基礎基盤研究課課長補佐
平成 15 年　５月　同　科学技術政策研究所企画課長
平成 17 年　７月　同　科学技術・学術政策局計画官付企画官
平成 17 年 10 月　同　（併）政策課安全・安心科学技術企画室長
平成 18 年　９月　同　大臣官房付（大臣秘書官事務取扱）
平成 19 年　９月　同　研究開発局海洋地球課地球・環境科学技術推進室長
平成 20 年　７月　外務省欧州連合日本政府代表部参事官
平成 23 年　７月　文部科学省ライフサイエンス課生命倫理・対策室長
（命）研究振興局研究振興戦略官
平成 25 年　７月　同　大臣官房付（命）内閣官房健康・医療戦略室参事官
平成 27 年　８月　同　研究開発局原子力課長
平成 29 年　１月　同　研究振興局参事官（ナノテクノロジー・物質・材料担当）
平成 29 年　７月　同　大臣官房政策課長
平成 30 年 10 月　現職

現在担当している業務の概要

研究開発局は、ロケット・衛星の開発や宇宙探査、海洋・北極・南極の調査等の地球環境の調査研究、新たなエネルギー源の開発、そして地震をはじめとした防災研究を推進しています。地球や宇宙を知り、私たち人類が持続的かつ安心で豊かに暮らすための重要な研究開発です。

私の役割は局のトップである局長を補佐することです。局内の個々の案件への対応はもちろん、複数の案件を統合した地球・宇宙全体の視点での取組を求められます。省を代表して対外的な説明や交渉も行います。時に国会の審議で質問に答えることや、国の代表として国際交渉にあたることも役割です。

地球や宇宙を相手にする研究開発ですので、長期間に亘り多種多様な技術や知恵を統合して取り組む挑戦が必要ですが、同時に人類の活動の幅を大きく広げる可能性を秘めた未来への重要な投資であり、大きな責任感とわくわく感をもって取り組んでいます。

これまでのキャリアを振り返って

特に印象深い3つの経験を紹介したいと思います。

まず、新たな国の政策を0から作り上げた経験です。2000年に米国が“国家ナノテクノロジー戦略”を発表した直後に、“日本でもすぐに取組を”ということで、即担当を命じられました。その後2年間で、政策立案、それに基づくプロジェクトを発足させ、推進するまでを担当しました。この分野は関わる範囲が非常に広く、結局、この間に1000枚もの名刺を国内外の専門家の方々と交換し、情報や助言を得たものです。現在では、この分野が量子科学技術や医療、産学官連携の取組としても大きく発展していることはうれしい限りです。

次は、外交官としての経験です。2008年から3年間、ベルギーにある在EU日本政府代表部で科学技術と教育に関し、日本を代表して交渉するポストに就きました。特に、着任時は、科学技術協力協定の10年に亘る締結交渉が難航していました。EUにのみならず日本政府へも時に再検討を求め、ついに締結に漕ぎ着けました。両政府が合意に至ったことを公式に確認する外交公文書である“仮署名”に、日本を代表して署名をする栄誉にも浴しました。

行政官としての仕事の考え方を根本から考え直させられた経験は大臣秘書官です。当時は無我夢中で、資料のぎっしり詰まった巨大な鞄を抱えただただ大臣を追っていた有様で、十分な仕事ぶりとは言えなかったものです。しかしながら、大臣の間近で、大臣と役所を繋ぐ役割を通じて、省内のあらゆる業務に触れる好機を得、また、一行政官としての視点を超え、大臣の視点でものを見ようとした経験は、その後、時が経つにつれ、様々な場面で、自分自身への助言となってくれています。

文部科学省という1つの組織の中にありながら、このように多様な得難い経験をさせて頂いています。

文部科学省を志望する方へ

今、世界は Society5.0 と呼ばれる大きな変革期です。人工知能、ビッグデータ、ロボティクス等が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方自体が非連続な程に劇的に変わっています。現在の職業の半分近くが将来はロボットで置き換わられるとも言われています。

従来の経験では想像できない大変化の中で、私たち、文部科学省こそ、まさに、このような新たな社会を築き、持続的に発展させていくために欠くことのできない「人づくり」、「科学技術づくり」を担う職場です。変化を楽しみ、自らのアイディアを国の取組として実現したいと思う皆さんこそ、当省で充実感を得る方と確信しています。

最後に、当省の働き方について紹介します。私自身、20 数年に亘り最前線での業務の機会を得ていますが、同時に今でも、息子にお弁当と夕飯を準備してから職場に来ている母親でもあります。省内に保育園もあり、近年はテレワークも導入するなど、仕事と育児や介護などの両立の環境は今もますます改善されていることは折り紙付きです。このように、文部科学省は、私生活と仕事両方の充実を目指せる職場です。